

Mapata 語の文法

フクロウナギ

2025 年 2 月 2 日

目次

1	音韻	6
1.1	子音	6
1.1.1	子音の音声	6
1.2	母音	7
1.2.1	母音の音声	7
1.3	音節	8
1.4	アクセント	8
2	品詞	9
2.1	名詞の特徴	9
2.1.1	代名詞	10
2.2	形容詞の特徴	10
2.3	動詞の特徴	10
2.4	接続詞の特徴	11
3	名詞	12
3.1	接辞	12
3.1.1	定性	13
3.1.1.1	wâ:-DEF	13
3.1.1.2	vo:-INDEF	13
3.1.2	人称	14
3.1.3	名詞類別	14
3.1.3.1	-ra:CL1	15
3.1.3.2	-ka:CL2	16
3.1.3.3	-pa:CL3	16

3.1.3.4	-s:CL4	17
3.1.3.5	-raa:CL5	17
3.1.4	格	17
3.1.4.1	-ik:INS	17
3.1.4.2	-ni:MOV	17
3.1.4.3	-ka:LOC	18
3.2	重複	18
3.2.1	複数	18
3.2.2	指大	19
3.3	複合	19
3.4	形容詞の複合	19
3.5	動詞の複合	20
4	形容詞	21
4.1	形容詞の重複	21
4.2	形容詞の複合	21
5	動詞	22
5.1	接辞	22
5.1.1	人称	22
5.1.2	方向接辞	23
5.1.2.1	-ni: 前方	23
5.1.2.2	-kop: 後方	23
5.1.2.3	-utva: 往復	23
5.1.2.4	-i : 上昇/下降	23
5.1.3	極性	23
5.1.4	相	23
5.1.4.1	-re:INCH	23

5.1.4.2	-ra:PROG	23
5.2	動詞の重複	23
5.3	動詞の複合	23
6	名詞句	24
6.1	名詞の並列	24
6.2	名詞による後置修飾	24
6.3	形容詞による後置修飾	24
6.4	接統詞	24
7	形容詞句	25
7.1	形容詞の並列	25
7.2	名詞を伴う形容詞句	25
8	動詞句	26
8.1	基本的な動詞句の構造	26
8.2	動詞連続	26
8.3	名詞による動詞の補足	26
8.4	相	26
8.4.1	-re:INCH	26
8.4.2	-ra:PROG	27
8.4.3	vinu:PRF1	27
8.4.4	ve:PRF2	27
8.4.5	vuru:PRF3	27
8.4.6	a:@@@	28
8.5	法	28
8.5.1	vo: 疑問	28
8.5.2	ari: 命令	28

8.6	態	28
8.6.1	受動	28
8.6.2	相互	28
8.7	否定	28
8.8	接続詞	28
9	節	29
9.1	比較	29
Vapara 語辞典		30
A	31
G	31
I	31
K	32
N	32
P	32
S	32
T	32
TS	33
U	33
V	33
W	34

グロス略号一覧

1 = first person, 2 = second person, 3 = third person, CL = class, COM = comitative, COP = copula, DEF = definite, INCH = inchoative, INDEF = indefinite, INS = instrumental, LOC = locative, MOV = movement case, NEG = negative, PRF = perfect, PROG = progressive, RED = reduplication, TOP = topic.

1 音韻

この章では、Vapara 語の音韻と表記について説明する。

1.1 子音

Vapara 語は以下の 10 の子音音素を持つ。

	両唇音	歯茎音	軟口蓋音
鼻音		n	
破裂音	p	t/ts	k
摩擦音	v	s	g
流音		r	w

1.1.1 子音の音声

Vapara 語の子音音素は前後の音素によって下の表のように異なる音声で現れる。

	CV	VCV	VC
p	[p]	[p]~[ɸ]	[p]
v	[b]~[β]	[β]	
n	[n]		
t	[t]~[tʃ]		[t]
ts	[ts]		
s	[s]		
r		[r]	
k	[k]	[k]~[x]	[k]
g	[g]~[ɣ]	[ɣ]	
w	[w]		

摩擦音 (v,g) は後述する緊張した母音の後、またはアクセントのある音節では破裂音 ([b],[g]) となることがある。また、破裂音 (p,k) は弛緩した母音の後では摩擦音 ([ɸ],[x]) になることがある。

@@@ @@@ @@@

(t) は前舌母音の前で破擦音となる。

QQQ QQQ QQQ

1.2 母音

Vapara 語は以下の 9 つの母音音素を持つ。

	前舌		後舌
広母音			â
	e	a	o
	i		u
狭母音	î	ï	û

1.2.1 母音の音声

Vapara 語の子音音素は前後の音素によって下の表のように異なる音声で現れる。

	語頭	CV	(C)VC
a	[ɐ] ~ [ə]	[ə]	[a] ~ [ə]
â		[a]	
e			[ɛ]
i	[ɪ] ~ [i]	[ɪ]	[ɪ] ~ [i]
î		[i]	
ï			[ɨ]
o			[ɔ]
u	[ʊ] ~ [u]	[ʊ]	[ʊ] ~ [u]
û		[u]	

母音は緊張した母音 (â,e,î,i,o,û) と弛緩した母音 (a,i,u) に分けられる。緊張した母音は語頭に現れることができない。

vasa [βəsə] 星
 vâsa [βasə] 髭
 vâs-apa [βasəpə] フクロウ

1.3 音節

Vapara 語の音節は最も複雑な形で CVC の形をとる。
以下に可能な音節の形の例を示す。

V			
	asa	[əβə]	サゴ
VC			
	apva	[əpβə]	心臓
CV			
	pakaka	[pəkəka]	指
CVC			
	pās-apa	[pas]	木の一種

1.4 アクセント

Vapara 語固定の高低アクセントを持つ。

多音節語では、最初の母音が高く、徐々に低く発音される。

一音節語では、閉音節の場合周りより高く発音され、開音節の場合周りと同じ高さで発音される。文の最後の単語については、最後の母音のみが低く発音される。

- (1) wârurup vâpâra nu ve.
[wârurup βâpapa nu βe]
私は Vapara 語を話す。

2 品詞

Vapara 語の形態素は以下の種類に分類される。

名詞

1 類名詞

2 類名詞

形容詞

動詞

1 類動詞

2 類動詞

3 類動詞

接続詞

以下の章では、それぞれの品詞の特徴を説明する。

2.1 名詞の特徴

名詞は単独で、または後述する名詞類別接辞をともなって文中で名詞として扱われる。

- (2) wâva waa vivu-riro
1 COP ウナギ-魚 CL
私はウナギだ。

後述するように Vapara 語では動作を表す語であっても名詞類別接辞による派生によって名詞として使われることがある。

そこで、名詞に分類される単語は名詞類別接辞の有無と語の用法との関係から以下のように特徴づける。①に当てはまる名詞を 1 類名詞、②に当てはまる名詞を 2 類名詞と呼ぶ。

- ① 名詞類別接辞を付けなくとも名詞として使われる

asva ヤシの実

tâa 鼻

- ② 名詞類別接辞が必ず付けられる。

wâ-ra 父

vivi-ra 母

名詞でない語は名詞類別接辞がないときは別の品詞として用いられる。

1 類名詞、2 類名詞、名詞以外の語の用法を表にまとめると以下のようになる。

	1 類名詞	2 類名詞	動詞/形容詞など
名詞類別接辞あり	名詞	名詞	名詞
名詞類別接辞なし	名詞	-	名詞以外

2.1.1 代名詞

Vapara 語には3つの人称と単数/複数に対応する計6つの代名詞がある。

	独立形単数	独立系複数	従属形
CL1	wâva	wapwak	ve
CL2	wata	watwak	ne
CL3	gâ	gaak	ga

2.2 形容詞の特徴

形容詞は名詞の修飾にのみ用いられる。

- (3) pakaka târat
指 長い
長い指

形容詞を直接文の述語とすることはできない。文中で形容詞が述部に使われるときは例文のように接尾辞を付けて名詞化して述語とする。

- (4) *tâa waa târat
鼻 COP 長い
- (5) tâa waa târat-riro
鼻 COP 長い
鼻が長い-CL5

2.3 動詞の特徴

動詞は動詞句の主要部として用いられる。

後述するように Vapara 語では名詞の中にも動詞句の主部になるものがある。そのため、動詞は動詞句の主部

になる形態素のうち、名詞でないものとする。

動詞はその意味によって3つに分類される。それぞれ接辞の扱いや複合語内でのふるまいが異なる。

①に当てはまる動詞を1類動詞、②に当てはまる動詞を2類動詞、③に当てはまる動詞を3類動詞と呼ぶ。

① 知覚、状態。動作主も対象も移動、変形しない動詞

(6) wâna ki nu ve.

リンゴ @ 食べる 1

私はリンゴを食べる。

(7) wâ-rak tak-ka vino-tra ve.

DEF-家 RED-LOC 見る-NEG 1

私はその村を知らない。

② 作用、動作対象が移動、変形する動詞

(8) vaga-ra ti varaa-ra geu ga.

男-人間 CL TOP 女-人間 CL 殴る 3

男が女を殴る。

③ 移動、動作主が移動、変形する動詞

(9) vâ-re a.

1-歩く 1 PRF

私は歩いた。

2.4 接続詞の特徴

接続詞は名詞どうし、動詞句どうし、節どうしなど同じ役割の要素の間に置かれ、それらをつなぐために用いられる。

3 名詞

この章では、Vapara 語の名詞の形態論について説明する。
Vapara 語の名詞は接辞、重複、複合によってその形を変える。

3.1 接辞

Vapara 語の名詞には以下のように接頭辞と接尾辞を付けることができる。

数-定性/人称-名詞-名詞類別-格

以下は、名詞接辞の一覧である。

定性

wâ-	DEF
vo-	INDEF

人称

vâ-	1
nâ-	2
gâ-	3

名詞類別

-ra	CL1
-ka	CL2
-pa	CL3
-s	CL4
-riro	CL5

格

-ik	INS
-ni	MOV
-ka	LOC

数接辞、人称接辞など、同じ分類の接辞が同じ名詞に 2 つ以上付けられることはない。
また、定性の接辞と人称接辞とを同じ名詞に付けることはできない。

(10) wâ-ra vâ-sava-ra
 DEF-CL1 1-若い-CL1

- (11) *wâ-vâ-sava-ra
DEF-1-若い-CL1
その私の子供

3.1.1 定性

3.1.1.1 wâ-:DEF

名詞接辞"a-"には以下の3つの用法がある。

① 同一の語の区別

同じ語が何回か使われているとき、それらのうち同じ人物を表す語を示すために"a-"が付けられる。

- (12) wâ-varaa-ra ti wâ-varaa-ra geu ga.
DEF-女-CL1 TOP DEF-女-CL1 殴る 3
女が自分を殴る。

- (13) varaa-ra ti varaa-ra geu ga.
女-CL1 TOP 女-CL1 殴る 3
女が女を殴る。

② 限定

文脈で提示されているものを表す名詞には"a-"が付けられる。

- (14) wâ-varaa-ra ti varaa-ra geu ga.
DEF-女-CL1 TOP 女-CL1 殴る 3
その女が女を殴る。

③ 強調

名詞を強調するために使われることがある。

- (15) wâ-ra vuru nu ve a.
DEF-CL1 話 言う 1 PRF
私が言った。

3.1.1.2 vo-:INDEF

名詞接辞"vo-"には以下の2つの用法がある。

① 疑問

疑問詞疑問文において、疑問詞の役割をもつ名詞には"vo-"が付けられる。

- (16) vo-ra ti wâva geu vo a?
INDEF-CL1 TOP 1 殴る INDEF PRF
誰が私を殴った。

② 不定

指す対象の人称が不定の時にも"vo-"が付けられる。

- (17) vo-ra ti wâva geu vo a.
INDEF-CL1 TOP 1 殴る INDEF PRF
誰かが私を殴った。

3.1.2 人称

接辞"va'-"、"na'-"、"ga'-"は名詞がどの人称に属するかを明示するとき、名詞が表すものの所有者の人称を明示するときに用いられる。

"va-"は話し手やその親族、"na-"は聞き手やその親族に付けられる。

聞き手が話し手の親族のときは聞き手も一人称として扱われる。

- (18) vâ-ka motoka waa vâ-wâ-ra ku-ni ve ti vâ-ka.
1-CL2 motoka COP 1-兄/父-CL1 与える 1 TOP 1-CL2
(その) 私の車 (motoka) は私の兄に渡すものだ。

- (19) nâ-ve-riro ki-kop asat ve.
2-魚-CL5 持つ-こちらに 願望 1
(その) あなたの魚がほしい。

人称接辞と名詞クラス接辞を名詞語根なしで合成した語は人称代名詞として用いられる。

- (20) utuweg-aka ti gâ-ka gatwara ga a.
犬-CL2 TOP 3-CL2 噛む 3 PRF
犬がそれを噛んだ。

3.1.3 名詞類別

接辞"-ra"、"-ka"、"-pa"、"-s"、"-riro"は名詞またはその他の品詞の単語に付けられる。

名詞類別接辞は以下の3つの用法を持つ。

① 名詞であることの明示

名詞語根は名詞類別接辞を付けることでその語が名詞であることを強調することができる。2 類名詞はこの用法の名詞類別接辞が必ず付けられる。

- (21) vâ-sava-ra ti asa-pa geki ve a.
1-子供-CL1 TOP サゴの木-CL3 木を切る 1 PRF
私の子供がサゴの木を切った。

- (22) vâ-sava-ra ti asa geki ve a.
1-子供-CL1 TOP サゴの木 木を切る 1 PRF
私の子供がサゴの木を切った。

- (23) *vâ-sava ti asa geki ve a.
1-子供 TOP サゴの木 木を切る 1 PRF
私の子供がサゴの木を切った。

② 名詞が指す対象の変換

同じ名詞語根が異なる名詞類別接辞が付けられることで異なるものを指すことができるようになることがある。指す対象の意味の変化は後述するようなそれぞれの接辞の意味に関連している。

- (24) pâwe-pa aa pâi-riro.
インコ-CL3 COM インコ-CL4
インコとナマズ類

③ 名詞化

一般に、名詞以外の語根も名詞類別接辞を付けることで名詞として扱うことができる。名詞化する語が動詞である場合は動作主、形容詞の時は形容されるものをそれぞれ表す語になる。

- (25) wâ-ra Jesika avig-ara waa vewâ ko-ra a.
DEF-CL1 Jesika 助ける-CL1 COP 弓矢 持つ-CL1 PRF
Jesika を助けた人は狩りをしていた。

3.1.3.1 -ra:CL1

接辞"-ra"は人間を表す。

awâ-ra 父/兄
vivi-ra 母
tiirii-ra 祖母

Vapara 語での人物名はほとんど植物名や動物名に接辞"-ra"を付けたものである。

gani-riro サメ
→ gane-ra
 @ @ @ @ @ @
→ @ @ @

1 類/2 類動詞に対して、動作の行為者を表すために動詞に接辞"-ra"を付ける事ができる。

vewâ ku 弓矢を射る
→ vewâ ko-ra 狩人
 itirip 釣る
→ itiriv-ara 釣り人

3.1.3.2 -ka:CL2

接辞"-ka"は人間以外の動物と虫のような小動物を表す名詞に付けられる。

utuweg-aka 犬
asrawâ-ka 蛇

3.1.3.3 -pa:CL3

接辞"-pa"は植物や鳥類を表す名詞に付けられる。また、木材で作られた物品、道具、細長いものを表す名詞に付けられることもある。

atag-apa 雄鶏
pâwe-pa インコ
tewe-pa ナイフ

2 類動詞に接辞"-pa"を付けることで、その動作を補助する道具を表すことができる。

teweu 切る
→ tewe-pa ナイフ

geu 木を切る
→ ge-pa 斧

3.1.3.4 -s:CL4

接辞"-s"は植物を表す名詞に付けられる。

agag-as 竹

3.1.3.5 -raa:CL5

接辞"-raa"は魚を表す名詞に付けられる。また、家に関する名詞、大きい道具を表す名詞にも付けられる。

pâgo-riro ナマズ
kâarak-riro 柱

3.1.4 格

格接辞は名詞が表すものの文中の動詞が表す動作との関わりを示す。

3.1.4.1 -ik:INS

接辞"-ik"は具格の接辞である。

具体的には、名詞が表しているものが動作の最中に動作主が手に持っているものであることを表す。

- (26) ve-riro waktsa nu ve.
魚-CL5 火-INS 食べる 1
魚を焼いて食べる。

3.1.4.2 -ni:MOV

接辞"-ni"は名詞が表しているものが動作によって移動していることを表す。

- (27) asva-ni ku vi a.
ヤシの実-MOV 持つ 1 PRF
ヤシの実を投げた。

3.1.4.3 -ka:LOC

接辞"-ja"は名詞が表しているものが動作が行われる場所であることを表す。

- (28) tap ira-ka vo-ra.
水 流れ-LOC 1-座る
河原で座る。

3.2 重複

Vapara 語では名詞語根を重複し派生させることができる。

派生した名詞の意味は元の名詞によって異なるが、大きく複数と指大の2つに大別できる。

以下で名詞重複の2つ用法について説明する。

名詞によっては重複するときに語根の形が変わることがある。

vana: 目
vana 目
na-na 両目
sâwâ: 星
sâwâ 星
sâ-sâ 星々

3.2.1 複数

多くの名詞は語根を重複させることで複数を表す。

- (29) wâ-rak-rak wâa.
DEF-家-RED 大きい
この家々は大きい。

生物を表す名詞は重複しないことが多い。

- (30) *wâ-vâ-vâ-ka wâa.
DEF-豚-RED-CL2 大きい
この豚たちは大きい。

- (31) wâ-vâ-ka vâ-ka wâa.
DEF-豚-CL2 RED-CL2 大きい
この豚たちは大きい。

3.2.2 指大

連続的な物質を表す名詞、一部の生物を表す名詞は重複することで量が多いことを表す。

tap: 水

tap 水滴

tap-rap 水

vivu: ミミズ

vivo-ka ミミズ

vivu-vivu-ka 大きいミミズ

3.3 複合

名詞の中にはいくつかの名詞語根が複合してできているものもあるが、数は少ない。

名詞の複合には主に以下の2つのタイプがある

① ① 対比/並列

pâ-wâka 空-地 世界

② ② 身体部位

vatsa-rak 頭-家 屋根

wap-rak 口-家 扉

3.4 形容詞の複合

一部の形容詞は名詞を修飾する際に名詞と複合できる。

(32) nâwâ-sava-ra

良い-子供-CL1

良い子供

単音節の形容詞、属性を表す形容詞は名詞と複合しやすく、複数音節の形容詞、度合いを表す形容詞は名詞と複合しづらい。

(33) *wâwâ-sapa-ra

大きい-子供-CL1

大きい子供

3.5 動詞の複合

1 類動詞、2 類動詞は名詞と複合して名詞が表すものが動作主であることを示すことができる。

(34) vutu nuu-gâ-ra no vi.

話 言う-男-CL1 見る 1

今話している男を私は知っている。

4 形容詞

名詞や動詞とは異なり、形容詞には接辞がつけられることはない。
そのため、形容詞の形態論は重複と複合に限られる。

4.1 形容詞の重複

形容詞に対して、重複はその度合いの強調を表すことがある。

- (35) vâra-pa nâwâ-nâwâ
木-CL3 綺麗な-RED
とても綺麗な木

4.2 形容詞の複合

同じ名詞を修飾する形容詞は複合して一語となることがある。

- (36) irita astsa-gari
枝 細い-硬い
細く硬い枝

5 動詞

この章では Vapara 語の動詞の形態論について説明する。
Vapara 語の動詞は接辞、重複、複合によってその形を変える。

5.1 接辞

動詞には以下の接辞が付けられる。

人称

vâ-	1
nâ-	2
gâ-	3

方向

-ni	前方
-kop	後方
-utva	往復
-i	上昇/下降

極性

-astsa	否定
--------	----

5.1.1 人称

3 類動詞は動作主の人称を表すために名詞と同じ人称接辞を用いる。

- (37) mâket tak vâ-aron-ni a
maket 家 1-船に乗る-前方 PRF
私は市場に船で行った。

1 類/2 類動詞は人称接辞ではなく人称代名詞で動作主の人称を表す。

- (38) ava nuu vi.
リンゴ 食べる 1
私はリンゴを食べる。

- (39) v_{ga}-ra ti v_{raa}-ra geu ga.
男-人間 CL TOP 女-人間 CL 殴る 3
男が女を殴る。

5.1.2 方向接辞

接尾辞"-ni-"、"-kop"、"-utva"、"-i"は動作主または目的語が表ものが動く方向を表す。

5.1.2.1 -ni: 前方

5.1.2.2 -kop: 後方

5.1.2.3 -utva: 往復

5.1.2.4 -i : 上昇/下降

5.1.3 極性

5.1.4 相

5.1.4.1 -re:INCH

5.1.4.2 -ra:PROG

5.2 動詞の重複

5.3 動詞の複合

6 名詞句

6.1 名詞の並列

6.2 名詞による後置修飾

6.3 形容詞による後置修飾

6.4 接続詞

7 形容詞句

7.1 形容詞の並列

7.2 名詞を伴う形容詞句

8 動詞句

8.1 基本的な動詞句の構造

8.2 動詞連続

8.3 名詞による動詞の補足

8.4 相

Vapara 語では相を動詞接辞や動詞句に後置する助動詞で表す。これらの要素は同じ形の動詞があり、意味的にも関連している。

	表現する相	動詞としての意味
-re	開始・進行	歩く
-ra	進行	立つ・いる
vinu	完了・経験	見る
ve	完了・経験	聞く
vuru	回想	(vuru nu) 言う
a	完了	

8.4.1 -re:INCH

前述したように、動詞接辞"-re"は動作が開始したことを表す。

"-re"は3類動詞に後置できないが、3類動詞を含む動詞句に後置して使うことはできる。

- (40) taarawâ-pa-ka vâ-kuki-ak te.
木の一種-CL3-LOC 1-登る-上昇 INCH
私は木に上っている。

"-re"と完了を表す要素は並列して使うことができる。

- (41) taarawâ-pa-ka vâ-kuki-ak te vuru.
木の一種-CL3-LOC 1-登る-上昇 INCH PRF3
私は木に上っていた。

@@@

8.4.2 -ra:PROG

前述したように、動詞接辞"-ra"は動作が進行していることを表す。

用法、意味ともに、"-re"と似ているが、"-re"が一時的な動作、終わることが予定されている動作を表すのに対し、"-ra"はいつ終わるかが未定の動作の継続を表す。

- (42) asvâ-pa ki geki-ra ve vuru.
ヤシ-CL3 @@@ 割る-PROG 1 PRF3
私はヤシの木を切り倒そうとしていた（が、倒れない）。

8.4.3 vinu:PRF1

"vinu"は、動作が発話者の経験の内にあることを表す。

- (43) watru vâ-nua-ak vinu.
カヌー 1-来る-下降 PRF1
カヌーが来た。

8.4.4 ve:PRF2

"ve"は、"vinu"と同様に動作が発話者の経験の内にあることを表す。

"vinu"は"見る"、"ve"は"聞く"と、元となった動詞は異なるが、相を表す2語に元の動詞由来の意味の違いはない。"vinu"は完了して間もない動作、"ve"は完了してから時間を経た動作を表す。

- (44) watru vâ-nua-ak ve.
カヌー 1-来る-下降 PRF2
カヌーが来た。

8.4.5 vuru:PRF3

"vuru"は完了した動作が発話者の記憶にあることを表す。

- (45) goupawe-pa vea ku ga vuru.
ヒクイドリ-CL3 弓 使う 3 PRF3
彼はヒクイドリを撃っていた。

8.4.6 a:@@@

"a"は動作の影響が自身に及ばないことを表す。よって、完了だけでなくまだ始まっていない動作や動作と発話者との物理的な距離も表す。

- (46) vâ-pâ-pâ-ra vâ-nua a.
1-人-RED-CL1 1-来る @@@
人々が来た。

8.5 法

8.5.1 vo: 疑問

8.5.2 ari: 命令

8.6 態

8.6.1 受動

Vapara 語には受動態を表す専用の形式はない。主格の名詞句を節に後置し、先頭に現れた対格の名詞句を強調することはできる。詳細は倒置の項を参照。

8.6.2 相互

8.7 否定

8.8 接続詞

9 節

9.1 比較

2つの節の間に"ni"を置くことで、後の節が表す内容の度合が前の節が表す内容より大きいことを表す。

- (47) wâva tavat sa ni vâ-raa-ra tavat sa.
1 目 良い ～より 1-女-CL1 目 良い
彼女は私より幸福だった。

比較対象の節は省略できる。

- (48) wâva ni vâ-raa-ra tavat sa.
1 ～より 1-女-CL1 目 良い
彼女は私より幸福だった。

比較対象の二つの節は同じ形容詞、動詞に関するものでなくても良い。

- (49) irita-ra ni isavo-ra .
死ぬ-CL1 ～より 生まれる-CL1
死ぬよりたくさんの人が生まれている。

Vapara 語辞典

A

a-ra

N2 人

ak

N2 両手

akwak

Adj 小さい

apva

N1 心臓

arat

N1 草、地面から生える草本

aratva

Adj 3つ

area

N1 足、片足

arî

N1 根

asa

N1 サゴヤシの木

asa-pa

N2 サゴヤシの木

asava

N1 芽

Adj 若い

asava-ra

N2 子供、若い人間

asva

N1 ヤシの実

aswâgat

N1 心臓

atra

否定、～ではない

追加、～かつ～

atvava-ka

N2 アリ

atwakwara

N1 蝶、蛾

atwâgav-apa

N2 花の一種

ショウガ科？

avak

V2 服を着る

awâ-ra

N2 父、男性の年上の親族

G

ga

三人称代名詞、動詞後置形

ga akwak

Adj 狭い

ga wâa

Adj 広い

gaak

三人称複数代名詞、彼ら、彼女ら、人間にしか用いない。

gâ

三人称単数代名詞、彼、彼女、人間にしか用いない

ge-pa

N2 斧

geu

V2 木を切る、切り離す

givorik

N1 頭蓋骨

Adj すでに死んでいる

gïssutsu

N1 コウモリ

goriuwe-pa

N2 ヒクイドリ

gû

N1 手、片手

I

irita

Adj 死ぬ、枯れた

irita-pa

N2 枝、枯れ枝、枯れた木

iriva

Adj 2つ

isaa

Adj 地面から飛び出た

isavo-pa

N2 種

isavu

Adj 生まれる、幼い

itirip

V2 釣る

itiriv-ara

N2 釣り人

iva

Adj 1つ

K

kara

N1 歯

kârak

N1 骨、一般の骨、大腿骨

ki kârap

V1 食べる、口に入れる、舐める

ki nu

V1 食べる

ki ve

V1 聞く

ki vinu

V1 見る

koi

N1 両足

koripwu

N1 親指

N

nana

N1 両目、一人の人物が備えている目の一組

ne

二人称代名詞、動詞後置形

nu

V2 話す、食べる、口を用いた動作

P

pakaka

N1 指

pâgo-riro

N2 ナマズ、一般のナマズ

pârustsu

N1 カエル

pâs-apa

N2 木の一種

pitsowe-pa

N2 鳥の一種

poavoi

N1 亀

S

sa

Adj 良い、美しい、光る

T

ta

V3 立つ、いる

taarawâ-pa

N2 木の一種

tak

N1 家

"-pa"を伴うことがある

tap

N1 水

tavat

N1 目、顔の一部分の片目

tâ tâ-ka

森

tâ-pa

N2 木一般

tâa

N1 鼻

tâgakâris

N1 トカゲ

târat

Adj 高い

te

V3 歩く

teitso-pa

N2 蛇

tet

V3 走る

tewe-pa

N2 ナイフ

teweu

V2 切る

tiirii-ra

N2 曾祖母

tiprip-ra

N2 祖母

tûru

N1 光、雷、大声

TS

tsip

N1 種

tsiwûrup

N1 バナナ

tsove

N1 音

U

ura

V3 座る

usa

N1 羽根

utno

N1 牙

utuweg-aka

N2 犬

V

va-ga-ra

N2 男

va-raa-ra

N2 女

vaa

N1 唇

vasa

N1 星

vastsa

N1 タカラガイ、装飾用の貝殻、小さい

vatsa

N1 髪の毛

vawâ-ka

N2 甲虫

vâ-ka

ここ、そこ

vâ-ka

N2 豚

vâs-apa

N2 木一般

vâs-apa

N2 フクロウ

vâsa

N1 髭

vâu

N1 時間

vâwâ

N1 太陽

ve

V1 聞こえる

ve

一人称代名詞、動詞後置形

ve-riro

N1 魚一般、食用であることを含意する。

vewâ ko-ra

N2 狩人

vewâ ku

V2 弓を打つ

vewâ-pa

N2 弓矢

vinu

V1 見える

vivu

Adj 長い、細長い

vivu-riro

N2 ウナギ、細長い魚

vo

不定人称代名詞、疑問詞、誰、誰か

vo-ka

どこ、どこか

vo-vâu

いつ、何日、いつか、何日か

vuru nu

V1 話す

vus

N1 耳、片耳

W

waa

コピュラ

waktsâv-apa

N2 樹木の一種

wap

N1 口

wap awâka

穴、洞窟

wap tak-pa

扉

wapwak

一人称複数代名詞、私たち

warot

N1 舟

V3 舟で移動する

wata

二人称単数代名詞、あなた

watsu

N1 男性器

watwak

二人称複数代名詞、あなたたち

wâa

Adj 大きい

wâga

N1 川

wâgap

V2 首にかける

wâpitsi

N1 芋類

wârat

N1 女性器

wârurup

N1 舌、味を感じ、言葉を発する器官

wâva

一人称単数代名詞、私

wâva

N1 果物、地上の植物性の葉以外の可食部

winii

V2 自身の頭を装飾する、被る

wipoi

N1 哺乳類の尾

wiputso-pa

N2 鳥一般

wivîstsii

N1 月